

[別紙 2]

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 アン・ピッチ・ハッダ (An Pich Hatda)

本研究は、カンボジアの都市近郊農村地域を対象として、雇用創出と所得向上に関して、その実態と特質、決定要素、制限要因、諸問題、さらに、今後の発展可能性について経験的根拠から明らかにし、計画的提案を行うことを目的としている。具体的には、雇用および収入に関して、その構造、創出過程、現況、そして将来における改善の可能性を説明するため、生計を得るための4つの基本構成要素—即ち、人、立地、経済活動、そして外部からの補助・援助—について分析を行っている。

調査対象農村地域における詳細な世帯経済状況インタビュー調査を実施し、その結果、生産性の低い農業部門における雇用が大きいこと、不完全雇用状態が広範囲にわたっていること、さらに、高い人口増加率と過度の土地資源利用により貧困が拡大していること、小規模産業や伝統的サービス業というセクターが欠如していること、識字率と職能が低いこと、技術が立ち後れていること、基礎インフラが欠如していること、人々の考え方が柔軟性に欠けること、組織・制度において弱さ・機能的問題が見られること、矛盾した開発モデルや都市に偏重した政府のアプローチが存在すること、外部による開発プログラムやプロジェクトは限定的な補助や補償であり、信頼性や一貫性に欠けること等の知見を得た。

分析の結果、雇用と所得の構造を決定する主な要素は、生産労働力の規模、空間的特質、経済活動及び収入源の数、所有する資源・資本、教育レベルに関連する質であることを明らかにし、とりわけ、空間的特質に関して、移動手段に応じた、都市サービス・センター及びその他の基本的なインフラストラクチャーからの距離とそこまでのアクセス性が、労働力移動と経済活動従事に対する意向についての空間的な決定要素となっていた。また、農業経営の範囲と生産性については、実質的には、生産資源所有の可能性とその効率的な利用、非農業活動から得られる世帯収入、市場へのアクセス度、技術利用のレベルによって決定されていることを明らかにした。

本研究は、以上のような知見を踏まえ、以下のような提言を行っている。すなわち、地域・農村開発計画及び政策決定においては、従来のものから、現代的な生産・サービス方式への体系的かつ安定した移行が求められる。その際、内性的（人的）な構成要素—人々自身とその活動、そして外性的な構成要素—場所と外部による援助、これら内性・外性の結びつきの構造こそが、システム全体にダイナミズムを与えることを可能とする。さらに国家開発計画における、従来の指針・規範を改善するためには、地域ネットワーク戦略を通し、都市と農村間のより相補的關係を目指した協調努力が求められる。また私営企業の活動を、地域で彼らの役割を果たすべく促進し奨励することも非常に重要なことである。

本論文は、基礎的データの不足しているカンボジアの農村部において、詳細な世帯経済特性に関する基礎的情報を提供するものであり、さらに、そのデータの分析に基づき、カンボジアにおける都市周辺農村における産業活動が都市と農村の関係性の中で形作られつつある実態を初めて明らかにした。さらには、そのオリジナルな知見に基づき、今後の地域開発計画における有用な提言を行っている。この意味で、本論文は優れた学術的な価値を有すると同時に、有益な実用的価値をあわせて有している。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。